

IRDR 2021 Conference

Main Session 3 防災・グローバルリサーチアジェンダの考察とその実現 (2021. 6. 9)

日本 IRDR 国内委員会 林委員長によるプレセッション報告

日本の IRDR 国内委員会（日本 NC）を代表して 5 月 20 に開催されたプレセッションの概要をご紹介します。

開会の辞、基調講演に続き、メインセッションとして 3 つのプレゼンテーションそして 5 人のパネリストとモデレーターによるパネルディスカッションを行った。

開会の辞では日本で今世紀前半、2035 年前後に国難級災害の発生が想定され、この災害を克服するレジリエンスを持たなければならないことを述べた。2 つの国難級災害が発生した場合 3 兆ドル以上の費用がかかる非常に困難な復興活動を余儀なくされる。またこれらの災害の予測・予防・対応・復興の過程を、防災、気候変動への適応、そして持続可能な開発目標（DRR、CCA、SDGs）の調和・整合性を実現する機会にしていかなければならない。そのためには「手段」が必要であり、その一つが DRR、CCA、SDGs に関する知識を統合する役割を果たすオンライン・シンセシス・システム(OSS)である。2 つ目の手段は国際的な専門知識のエッセンスを OSS により現場に伝えるために、問題解決の触媒として有能なファシリテーターを現場におくことである。日本 NC ではこれらを深く議論し提言としてまとめたが、今回のプレセッションは、この 2 つの概念を広く紹介する良い機会となった。

次に水鳥 SRSG, UNDRR 国連防災機関代表が基調講演を行われ、暖かいメッセージと OSS の必要性に関する支持を表明された。

プレセッションの最初の日本 NC によるプレゼンテーションは、ファシリテーターと OSS の関係とその応用について紹介し、データ統合など OSS が果たすべき機能と現場での問題への対処に焦点を当てた。2 番目のファシリテーターに関するプレゼンテーションでは、ファシリテーターの役割として 1)MC すなわち現場のワークショップの進行役、2) 現場で問題解決を促進する触媒機能、3)現地での問題解決に必要な専門知識を提供する OSS の担い手、の 3 点が挙げられた。3 番目のプレゼンテーションは、OSS とファシリテーターの活用のミャンマーでのケーススタディの紹介である。地元のニーズを知るファシリテーターと国際的な専門知識を持つファシリテーターの 2 人が協力し、地域の問題解決に成功したが、OSS は 2 つの専門性を結びつける大きな助けとなった。

続いて 5 人の著名なパネリストによるパネルディスカッションが行われ、OSS やファシリテーターについて専門的な知識と経験に基づいた見解が述べられた。モデレーターがパネリストに個別の質問と 2 つの共通の質問を投げかけ、多様な視点からの中身の濃い議論

を要約した。その結論は、レジリエントな社会の実現には DRR、CCA、SDGs の調和・整合性が重要であり、OSS と現場のファシリテーターによる触媒機能が大きな助けとなる。科学コミュニティは OSS とファシリテーターを活用することで、新たな複合的、連鎖的、システミックなリスクに対処していかなければならない、というものである。

IRDR 設立の翌 2009 年に日本学術会議 IRDR 分科会が設立された。日本学術会議は著名な学術機関であるが、その機能は議論の場であり、実際に行動することではない。そこで我々はほぼ 10 年間にわたり IRDR の一部として何をすべきか検討を重ね、特にアジアでの、そして世界的な規模での DRR、CCA、SDGs の調和・整合性という重要な課題を推進するため、IRDR 日本 ICoE として活動を進めていく体制の準備ができた。

質疑応答（抜粋）

質問：Riyanti DJALANTE, Chair, IRDR Scientific Committee

ファシリテーターは、分野間での生産的なやりとりを可能にしたいと思いますか？また、ファシリテーターは、南北間格差や地域間および国際間の格差を解消することにどのように役立つでしょうか？

回答：林 春男 日本 IRDR 国内委員会委員長、防災科研理事長

有能なファシリテーターであれば科学と政策、科学と実践を結びつけることに意欲的で、南北問題等を解決する上で有用で強力なものになると思う。これまでファシリテーターは理科系よりも文科系分野の傾向があり、地域の問題への対処は特定の人々の個性に依存していた。しかし、OSS の支援によりファシリテーターを育成するという我々の提案はファシリテーターの質を標準化し、地域の問題を解決するのに役立つ。我々は、現場で起こるすべての問題は現場で解決できると信じており、そのためには、現場での事象をよく理解していると同時に現場の問題を解決するための豊富で幅広い知識を持つことも重要である。その機能を個人に求めれば、大変な作業になるかもしれない。しかし最近の情報技術の進歩により、自動翻訳能力が非常に高くなっており、現地スタッフの言語を準業務共通語である英語に翻訳することができ、またそれを他の現地の言語に翻訳すれば、完璧ではないが現地のファシリテーターが直面している問題に対処するためのヒントや力になる近似値として機能する。

科学と社会の問題、科学と政策の問題、学会と実務者の問題などに対処するための人の資質の面も強調したい。そのためには OSS の助けを借りて、異なる分野間の問題をまとめる触媒となれる人でなければならず、そのような能力を生かす意欲のある人は、有能な潜在的ファシリテーターといえる。これが我々の提案で、まだまだ道のりは長いですが方向性は良いと思う。